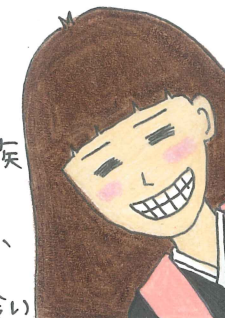


法親寺新聞

2018年 春彼岸号
手書き新聞 No.31

こんにちは。釋 紗音です。
最近、メディアや広告の影響で、『家族葬』『直葬』『樹木葬』などの言葉を当たり前のように聞きました。
亡くなる本人が、『私が死んだら家族葬にしてほしい』と、家族へ伝えて亡くなる事も少なくない様です。
遺族が故人の意思を尊重したいと思う気持ちは大切ですが、葬儀は本人の為だけにあるものではありません。
人間に生まれ、育てていただき、一生を通じて沢山の方と知り合いお世話になってきたのに、人生最後の節目にお呼びしないのは、故人と親交のあった方も、後悔ばかりが残るのではないのでしょうか。
葬儀は、故人と深く関わってきた方々が、この世でのお別れをすると共に、故人の死を少しずつ受け入れ、自分自身もいつか死に直面する日が来る事を考えさせられる場にもなります。
最近では、死んだ人を見せるのは子供の影響に悪いからと、おじいちゃん、おばあちゃんの葬儀でも、子イ共を連れて行かない人がいるという話を聞いて驚きました。
小さい頃から命の尊さを知ること、その人の人生を大きく左右します。メディアや周りの意見に惑わされず、残された方々が後悔しない選択をしてくださいね。



玄かい一入息子を亡くしたキターゴタミーという母親がいました。彼女はその死を受け入れることができず悲しみに打ちひたされ、どうにか子どもを生き返らせることはできないかと執専のもとを尋ねます。執専は母親に対して、「一入も死んだことのない家から白いケシの葉をもらってくるように」と言います。
キターゴタミーは無我夢中で田中を歩き回りますが死者を出したことの無い家(ほと)にもありません。そして彼女は歩き回らうちに死は誰にでも避けることのできない出来事であることに気づき、自分自身の人生の問題に目覚めていきます。
あらゆるものは、絶えず木々り変わり、けって永遠ではないという教えを諸行無常と言います。この世に生を受けたものは必ず死を迎えなければならぬという教えを生者必滅と言います。しかし、この教えを聞いても死を受け入れることはそう簡単ではありません。
愛する人との別れを通して、人の世のほんのさ、いのちのもろさを知り、避けられない死を縁として、生かされるいのちをどう生きるのかを考えたていたのです。
仏教に「生死一如(しょういちに)」という言葉があります。生死とは、人生のこと。生と死は表裏の関係です。死を考えずして、生は存在しません。死無くして、清浄の地、浄土へ往生することはいけません。
我が浄土へ生まれよ」との阿弥陀様の呼び声。南無阿弥陀仏を称えさせていただき、お浄土へ生まれのいのちを生かさせていただきましよう。
住職 釋信哉



釋里蓮のコレがオススメ!!



おしゃべりなQ&Aコーナー

Q... 法事は何回忌まで勤めるのがよいですか??

A... 法親寺では、1,3,7,13,17,25,33,50回忌をご案内していますが、地味或によってはそれに加えて23,37回忌を勤めるお寺もあります。
50回忌以降は、50年おきに勤めます。
法事は、故人を偲ぶと共に命の尊さを改めて考えるきっかけになります。
縁のある方々と一緒に勤めましょう。

2018年 1月13日
御正忌 報恩講法要



親鸞聖人が阿弥陀如来のお念仏の教えにあられた喜びを偈(うた)にした『正信念仏偈』を皆でお勤めし、東京教区 本清寺 副住職 本願寺派布教使 千田匡真師の法話を聴聞させていただきました。寒い1日でしたが、沢山の方にお参りいただきました。

2018年 1月15日~16日
本願寺 御正忌 報恩講

15日は連夜法要に参り、夜中まで法話を聴聞しました。
16日は大谷本廟でお参りました。



15日の連夜法要の様子



聞法会館での通夜布教の様子

2017年 12月23日
報恩講 子どもの集い

100名以上の子供が参加し、南大門献花も子供達がやり、お勤めしました。餅つきやカレー、スーパーボールすくいなどの出店もありとても賑やかでした。



人形劇団「東芸」による劇が2作品上演され、人気でした。



スーパーボールすくいの様子

食欲の春を過ごしている釋里蓮です。今回ご紹介するのは、岡山市内にあります、そば処「水谷」さんです。私がいただいた「鰻せいろ」は、香りの良い出汁に鰻肉・つくね・白ネギが入っています。甘い出汁が細めのそばにもよくからんで美味しい(´ω`)。黒土味をかけるのもオススメ。売り切れると閉店する、とても人気のお店です。 営業時間 平日 11:00~17:00 定休日 水曜日 土日 11:00~19:00 岡山市東区 大倉ビル1F




お知らせ

初めてのお参りをする先生です!!

春季永代経法座

●日時● 平成30年 4月21日(土) 午後1時~

●場所● 法親寺本堂

●講師● 本願寺派布教使 八木 宣 師

※お車で越えの際は、隣接駐車場、臨時駐車場、玉野高校駐車場へ。